

燧ヶ岳（2356m）・至仏山（2228m） 日本百名山

2021年9月27日 Shiba

尾瀬ヶ原を挟み対峙する燧ヶ岳と至仏山。原っぱや沼は何度か訪れたことがある。今まではただ見上げるだけであったが、やっと山登りをする機会に恵まれた。至仏山山頂から尾瀬ヶ原方面へは通行規制により下れないため、2つの山を連続登山するとなると、どうしても会津側の燧ヶ岳を先に登りそれから至仏山ということになる。連日の山登りではきついし、また無理をしても至仏山からの下山日のうちに帰阪できるわけでもないため、中日(なかび)に休養日がてらの尾瀬ヶ原散策を入れるプランとした。

(9月27日) 燧ヶ岳

前日は1日掛けて京都から新幹線、JR、東武電車、会津バスを乗り継いで桧枝岐村へ。入山拠点にある御池ロッジはコロナで休業中のため村のほぼ中心にある「かぎや旅館」に泊まった。この宿は秘湯の湯として、巷では☆一つ(3段階評価)評価として登録されている。宿では珍しいキノコや山菜の料理を色々出してくれ、岩魚の骨酒と相まって料理を十分に堪能することができた。

宿の近くの停留所から沼山峠行 6:30 発のバスに乗り込み、30分程揺られて入山口の御池で下車。まずは用足しのためトイレへ。公衆トイレではあるが、驚くほどキレイ。町中にあるショッピングセンターのトイレと遜色がない程で、進んで協力金も出さざる得ない気持ちなる。

登山口は駐車場を突き切った奥にあり、樹林の中に入っていくとすぐに分岐があり燧ヶ岳へのルートを取る。ガレ道や木道の繰り返しをしばらく登っていくと30分程で急な登りになってくる。ブナ林を抜け、傾斜も緩やかになると道が開け湿原が広がる。広沢田代である。残念なことに木道修理用の資材があちこちに積んであるため景観が台無しだ。再び樹林に入り一山超えると今度は熊沢田代の湿原である。木道の両側には対称的に池塘がある。本来は写真になるのだろうが、この日は雨ではないがガスに阻まれ遠くの視界がすっきりしないのが残念である。ここから再び傾斜が始まり進むうちに傾斜がきつくなってくる。笹原にハイマツが見られるようになり、後ろを振り返ると、ガスの切れ間から今辿ってきた熊沢田代や広沢田代それに御池の駐車場がかるうじて見えるが、それ以上先は見えない。

俎崙の山頂には 11:15 に到着するが、ガスに包まれ展望は全くない。30分程の休憩の後、最



熊沢田代



燧ヶ岳（俎崙）山頂

高地点である柴安崙に向かうが、下る方向を間違えてしまった。山頂から 5 分程下った所で右方向の一瞬のガスの切れ間からりっぱな山容が確認できるではないか。うっかりしていた、頭の中から沼へ下る道もあることがまったく抜け出していた。引き返してみると、山頂からすぐ下の所の石に「矢印」と「ハラ」の目印があった。柴安崙の山頂もガスのため展望はない。ここからは見晴新道を下るが、途中の長いぬかるみ道に足を取られながらの下りで、出来れば遠慮したい道筋と感じた。

見晴には山小屋がいくつかあるが、尾瀬小屋に泊まった。選択の一番の理由はモンベル会員カードで 500 円引きの特典があり、またクレジットカード支払い OK とあったためである。お風呂にも入らせてもらえ、またトイレにはウォシュレットが設置されており、ずいぶん快適であった。

(9月28日)尾瀬ヶ原

朝食の前に小屋の表に出ると、至仏山の上下に雲が掛かり、見栄えのいい写真が撮れた。昨日と違い天候は申し分ない。

朝はゆっくりとし、8:00 頃三条の滝へ向けて出発する。温泉小屋までは燧ヶ岳のすそ野の原っぱの端にある整備された木道に行く。途中、小さな川をいくつか渡るが、尾瀬の雪解け時、このような川の淵の満水の水底で水芭蕉が水中花になっていた光景が思い浮かぶ。温泉小屋を過ぎると木道は荒れ、傾斜の少ない山道になる。平滑ノ滝からは急峻な岩場や階段もあり注意を要する。道標に従い左に折れ川側にせりだした崖っぷちを下ると三条の滝の展望台だ。ここは日本の滝百選にも選ばれているとあって迫力満点だ。この後、引き返しつつ山の鼻へ向かうが、東電小屋への分岐点まで戻ってきた所で、コーヒーを飲みたいとわがままを言い出す者がいる。仕方なく昨夜泊まった尾瀬小屋まで戻ること。小屋の人から「ここへ戻ってくるのであれば荷物を置いていけばよかったのに」と言われてしまった。小屋の前にはテラスがあり、幾つかのパラソルと肘掛付きの椅子がならんでいる。それぞれの椅子の横には小さなテーブルがあり、注文したコーヒーやビー



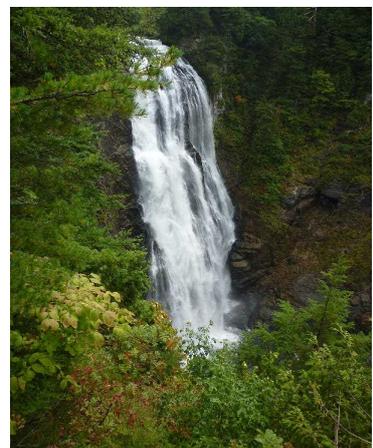
柴安崙側山腹より見る俎崙山頂



最高地点柴安崙山頂



見晴から見る朝の至仏山



三条の滝

ル、それに軽食を持ってきてくれる。至仏山を眺めながらの小一時間程の至福の時を過ごせた。

(9月29日) 至仏山

山の鼻では尾瀬ロッジに宿泊。朝食は6時からだが紙の容器に入った弁当形式のものを食堂で食べる。もちろんみそ汁やお茶も提供してくれる。我々は6時に出発することになっていたため、前夜に準備してもらった昼食用弁当を食堂で5時頃に食べ、6時に出来上がった朝食用弁当を昼食用として受け取った。

出発は6:15。ロッジからそのまま至仏山へ向かって歩いていくと、山の鼻散策路の植生保護のための網囲いがある。そこを抜けるとすぐに山登りが始まる。道はほぼ直登でジグザクが少ない。岩場と木の階段がほとんどで、岩場は蛇紋岩のため滑りやすい。1時間程でほぼ森林限界に達する。振り返ると尾瀬ヶ原が広がりその向こうに燧ヶ岳がそびえたっている。抜群の天候に心も躍る。標高を稼ぐにしたがって展望が広がっていく。頂上到着は9:30で、ほぼコースタイム通りである。登ってきた方向にはもちろん燧ヶ岳、その左には会津駒ヶ岳。反対側には谷川岳。南の方向には日光白根山や男体山。北を向いてはあれが八海山と人が教えてくれる。この360°のパノラマに大興奮。下りの至仏山から小至仏山までは岩稜歩きといい、見える景色といい、アルプスの稜線歩きと全く同じで、一昨日の燧ヶ岳の分まで取り返した気分である。

尾瀬の山に登るのは今回が初めてであったが、尾瀬地域に来るのは6回目。原っぱの木道では歩く人をあまり見かけない。本来、日本一の入山者数を誇る尾瀬。その尾瀬もコロナには勝てず、寂しい限りであった。

◆メンバー：S、他2人

◆コース：(9月27日) 尾瀬御池 7:15～広沢田代～熊沢田代～燧ヶ岳(俎嶺) 11:15～柴安嶺～5合目(1900mピーク)～見晴(尾瀬小屋) 16:00

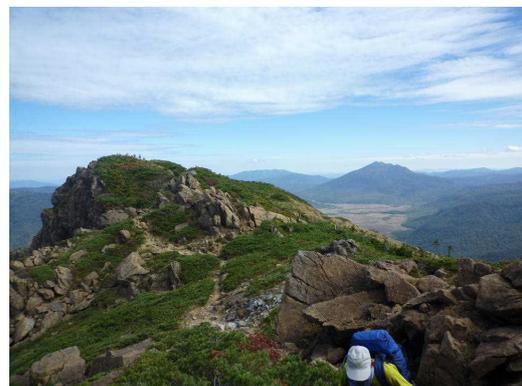
(9月28日) 尾瀬小屋 8:05～三条の滝～尾瀬小屋～山の鼻(尾瀬ロッジ) 15:00

(9月29日) 尾瀬ロッジ 6:15～至仏山 9:30～小至仏山～鳩待峠 13:00

◆所要時間／歩行時間：(9月27日) 8時間45分／7時間25分、(9月28日) 6時間55分／5時間35分、(9月29日) 6時間45分／5時間40分



至仏山山頂



手前至仏山、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳と並ぶ